



発行所 高崎同窓会
高崎市八千代町2-4-1
TEL. 0273-24-0074

編集兼発行人 志村甲子郎
印刷所 高崎印刷所
高崎市電見町6-1
熊谷印刷所

ご挨拶にかえて



校長 中沢 誠一

晩秋も深まり初冬の風の音がきこえてくる季節になりました。原会長さんをはじめとして同窓会の方々には平素物心両面にわたって一方ならぬご尽力ご協力を戴いておりますこと厚く御礼申し上げます。特に一昨年挙行いたしました八十周年記念式典、記念事業につきましては大変なお力添えご支援を賜りました。重ねて厚く御礼申し上げます。

私は名校長として数々の業績をあげてこられた中野勲宗先生のご退任の後を受けてこの四月一日付で本校に着任致しました。もとより浅学非才ではありますが、前校長の残された業績をけがすことのなきよう全力を傾注して本校の充実発展のため尽力いたす覚悟でございますのでよろしくご指導

とご支援を賜りますようお願い申し上げます。四月以来まだそう長くはございませんが私のみたところ生徒は大変落着いて勉強いたしております。部活動も極めて活発、大部分の生徒が真面目で礼儀正しく分をよくわきまえ勉学も熱心、これと言った生徒指導上の問題も今のところございません。極めて堅実、県下随一の名門校としての誇りと品格を有しており、着任以来益々意を強ししている次第です。私はさらにそれを一層輝きあるものになりたいと思っております。私は具体的教育方針として次の三つを掲げております。一、学力の向上(具体的には進学率を高める)、二、体力の向上(具体的には部活動の振興をはかる)、三、日本人としての自覚をもち、びしっとした規律

ある生活態度を身につける。これからこの三つの方針を核として教職員と力を合わせて生徒の健全な育成をはかっていく所存です。本年は我が野球部が秋の県大会に優勝、関東大会では準優勝を獲得しました。高校生らしいさわやかな品格をもったブレ一で、全校あげてその喜びをかみしめております。

あわただしい中にも新年の用意を整えるのは心楽しいもの、きびしい修練をより一層積みながら春の身仕度をはじめていくつもりです。何卒皆様の絶大なるご指導とご協力をお願い申しあげてご挨拶の言葉にかえさせて戴きます。

(昭和五十五年十一月三十日)

第七十九回高々同窓会新年総会

日時 昭和五十六年一月二十四日(土) 午後二時より
会場 高崎商工会議所 六階大ホール
(高崎市問屋町二一七 電話二七三六一一五二七)

総会会費 三、〇〇〇円
維持会費(一般) 一、〇〇〇円

第七十九回高々同窓会新年総会に書つて御参加下さい。

当番幹事代表 横 田 英 一 (五十回)

先般の常任理事会において、原一雄会長は、新年総会に一人でも多くの会員をお誘いし盛大に開催出来る様に若手の年寄を代表して五十回が当番となり準備を進めて欲しいと要望されました。それを受けて五十回生は、ただ今鳩首をそろえて運営対策を検討しております。

さて準備を進めてみますと、高々同窓会は、多種多様な時代と構造が絡み合っているのに気がきました。

- 一、三七回 上和田時代
- 二、三八回 乗附高中時代
- 三、四七回 翠蘭校歌時代
- 四、五七回 セルリアン校歌時代
- 五、七六回 大学現役
- 六、七九回 通信制

同窓生各位にはそれぞれの思い出があり、相集う会話にそれぞれの時代への謳歌が聞かれます。新年総会ではこの様な時代の特長を披露して頂きながら、新しい方向を模索してみたいと考えております。総会までには時間もありますので、何か名案がありましたらどうぞ五十回生にお申し付け下さい。

ここで現役諸君の歩みに目を転じますと着実な学芸部の活動に呼応して、運動部でも、野球部が悲願の甲子園への切符を手中にし、休部していたスキー部が復活しました。

これら元氣な若い人たちが胸を張って入会し活躍出来る様に、新年総会を盛大にし意義あるものになしたいと考えております。どうぞ奮って御参加下さい。

【同窓生便り】

同窓会雑感 24回卒 五十嵐徹夫

私は先般、高々同窓会の役員に選ばれて役員会に出席して、高々に会費を徴収している同窓会がある事を知った。

私は前橋市に二十数年前から住んでいるが、同窓会の会費請求や総会の通知も無かったが、同窓会長をしていた友松君(二五回)と、高橋さん(二八回)に誘われて、高々の総会に二回出たのを覚えていて、役員になってからは、会費の払い込みをし、役員会に出席して種々の話を聞いていたが、目下の同窓会は甚だ低調であるから、これを育て上げるには大きな苦勞があると思われ、若い有能な人達に大いに期待している。私は東京水産大学の同窓会の役員もしているもので、その状況を参考に書いてみる。会員は七千人位であるが、年四千円の会費を七割位が納めている。

専任職員が三名居り、事務所は大学構内の高崎記念会館の中にある。

同窓会誌「栗水」を年四回発行するほか、会員名簿を毎年作って会員に送付している。しかし、会費を納めない人には会誌と名簿は送らない。

七十才以上の老人からは会費はとらない。会長は高崎達之助氏の死後、鈴木善幸氏が継いでいるが、会長は役員会等でも挨拶するだけで、副会長の数人が分担している事項を処理してゆく。

各県毎に支部を創る方針であり、会費は支部で集めて本部へ送金するとその二割を支部へ払戻す。

同窓会の役員会及び総会のほかに、支部長会があり、会の実際の運営は役員会と支部長会の決議で行われている。

今後の高々同窓会に対する希望は、同窓会員二万人いると聞いたが、会費は安くして大勢寄り集まるのが良策であるから一万人会費納入者実現を目標に具体策を樹

立して実行すべきと思う

会費は、現行の千円を値上げするという意見もあるが、何れでも良いと思う。しかし、会費に相応する仕事をしてその様子を会費を払った会員に報告すべきである。

会費の徴収は、市町村毎に役員を置くか卒業年次毎に役員を置いて取り纏めて頂くか検討する必要がある。

同窓会誌は年一回発行して会員に配布するほか、会費未納の会員に之を示して会費納入会員拡大の材料とすべきだと思う。

現に二一回の卒業級友会とは別会報を発行しており、第七号を先日友人より頂いたが、五十六頁に及ぶ立派なものである。

高々同窓会誌への原稿と言われましたが、会誌を見たことがないので、見当がつかないまま、高々同窓会の発展を祈り、愚見を添えて申し上げました。

拝啓 諸兄殿 61回卒 友松敬三

同窓会報に一筆を、と懐かしの志村先生に依頼された。彼の先生は、小生が在学中に一度も御教授願わなかったが、何故か無性に懐かしい。懐かしい先生が母校に数少ないくなった故なのか、親しみ易い御尊顔なのか何故か本当に分らない。最近同窓会関係でお付き合いさせて頂き、それも急に二十年振りに話し合うようになった。(昔は確か口を聞いてもらったことが無かったかも知れない)とにかく懐かし過ぎるので筆不精の小生も今、いそいで机に向っている次第である。

昨春、小生は思いもかけない高得票で、皆さんに高崎市議会へ送ってもらった。学生時代も、小学校を除いてこんな良い成績はなかった。選挙時の高々総決起の会場で、市川清先生の、「橋爪君も、友松君も、兄貴はなか／＼良い成績でした皆さん」が、今も心に残っている。(それも、とても心よい響きとして……)小生が市議会を目指したのは、言うまでも

も無く我が郷土高崎の大変な遅れの為であり、又、小生に一番合った仕事だと思ったからに他ならない。「高崎」を思う気持は諸兄と同じであり、自分を生かしたい、と思ふのは自分の一生の為である。微力でも真すぐに正しく進めば、きっと世の中が良くなる、という甚だ思い上った考えを実行に移した。我が校O・Bの市議会参加率が一割程度なのも頷けないし、もっと積極的に行政に対して発言してゆきたいとも思った。

市民の代弁者としての議会の動きは、多角的に行政に影響を及ぼす。議会人に夢が無ければ行政にも夢がないし、実務的な発想が無ければ、十年も二十年もその考えは変わらない。高崎市議会が頑張りねば、永久に高崎市は変化しない、と胆に命じ、その気概で小生は張り切っているのである。しかし、小生が幾ら負けてもまだ、現段階では、小生の遠く及ばない大きな次元で歯車は廻っているし、自分がその一役を担っているとは思っていない。只今見習い修業中の身なのである。

音楽部へ楽器寄贈

音楽部OBと有志

頃、本校音楽部の活動に対し物心両面にわたって援助、指導に当たってくれているが、先般、音楽部定演二十周年を記念して、特別演奏会を開催するとともに、母校音楽部の楽器購入資金の募金活動を行い、OB会・同窓会・一般の有志の方々から、浄財を集め、左記の楽器を購入、母校に寄贈した。関係先徒及び職員は大いに感謝し、一層充実した部活動に励んでいる。

寄贈楽器(総額二、四五六、〇〇〇円)
 テナーサクソ 一本(一〇〇、〇〇〇円)
 ビッコロ 一本(九〇、〇〇〇円)
 オーボエ 二本(九三、〇〇〇円)
 ファゴット 二本(八八、〇〇〇円)
 チューバ 一本(三三、〇〇〇円)
 シンバル 一本(九五、〇〇〇円)
 小大鼓 一本(三一、〇〇〇円)

せん」と、すぐにことわることにしている。内容によつては、(理不尽な、無駄な)それは出来ませんが、やりたくありません」と堂々と答えるようにならなければ、とも思ふのである。議員活動と議会活動、共に両輪のごとく活動してこそ、諸兄の御期待にこたえられるというもの。とかく議員活動ばかりに走ると、「ドブ板議員」と呼ばれたりする。呼ばれることに拘泥することはないが、ふり返った時に自分がはじめになるに違いない。選ばれた四年間を晴々と一生懸命やってみたいと思う毎日である。乞御期待ノ最後に、諸兄と共に、我が母校、我が高崎の増々の発展を願ひ、諸兄の身体御健勝であらせられます事を願ひつつ……敬具
 昭和37年卒

【母校便り】

生徒会各部活躍状況

昭和五十五年十一月現在までの本校生徒会各部の活躍は、先日開かれた井上賞(運動部校内表彰、真木賞(学芸部校内表彰)選考委員の頭を悩ませるほどめざましいものがありました。以下にその概要を報告し、同窓生皆さんの御理解と御声援を仰ぎたいと思います。

運動部(順不同)

剣道部

国体出場ベスト16 柳田昌彦(三年) 10月13・14・15日。日光市。

一年生大会第三位 11月9日。高崎商。

本年度は三年生がそろっており、優勝できる力を持っていたにもかかわらず、近年にない最低の結果に終わった。しかし、柳田の国体本大会までの真摯な練習態度と四回戦進出までの活躍ぶりは、称賛に価する。また、一年生大会での前商を破っての三位は今後に期待できる。

硬式テニス部

高校総体個人戦(S) 優勝 林(二年) 団体戦第二位 五月。

関東大会県代表(S) 林(二年)六月。

国体県予選(S) 優勝 林(二年) 国体関東ブロック大会群馬県代表(S) 第三位 林(二年)。

国体出場(S) 林(二年) インターハイ県代表(S) 林(二年) 高校選手権大会個人戦(S) 第二位 林(二年) 以上は8月中旬。

群馬県庭球選手権大会C級(W) 優勝 佐藤(泰、内田雅)(二年) 9月。

群馬県庭球選手権大会A級(S) B・8 林(二年) 10月。

新人学校対抗(団体) 第二位 新人選手権大会個人選(S) 第二位 林(二年)。

清水善造杯東西対抗高校の部選抜(S) 優勝 林(二年) 同(W)優勝 佐藤(泰、内田雅) 以上11月。

柔道部 県高校学年別柔道選手権大会一年の部第三位 宮本泰明(戦績 一回戦不戦勝、二回戦〇大外返し、三回戦〇内股、四回戦〇内股、準々決勝〇横四方固め、準決勝△合せ技) 県高校学年別柔道選手権大会二年の部第三位 富岡誠一(戦績 一回戦不戦勝、二回戦〇支え釣込み足、三回戦〇内股、四回戦〇内股、準々決勝〇すみ返し、準決勝△横四方固め) 以上5月3日、県立武道館にて。

水泳部 関東春季室内選手権水泳競技大会50m自由型第一位(26秒40) 斎藤政宏(三年) 同100m自由型第六位(59秒13) 5月。

北関東水泳競技大会100m自由型一位(57秒6) 斎藤政宏(三年) 6月。

県総体学校対抗総合第三位 関東予選400mメドレーリレー第一位(4分47秒1) 同100m背泳第一位(1分12秒5) 松井高志(二年) 同200m背泳第一位(2分42秒4) 松井高志、第二位(2分52秒3) 都筑秀明。同800mリレー第二位(9分48秒3) 同400m個人メドレー第三位(6分07秒7) 石井晋也 関東高校水泳競技大会100m自由型(58秒0) 斎藤インターハイ出場権獲得 以上7月。

インターハイ100m自由型に出場 斎藤。8月、徳島市にて。

国体100m自由型出場 斎藤。9月。

登山部 関東大会(県代表5チーム参加) 11月8・9・10日に茨城県奥久慈山塊(主峰、男体山)で行なわれる。参加生徒は一・二年生5人で、成績評価はなくフェスティバル形式であった。

軟式テニス部 県総体個人の部で石井・武井組が関東大会に出場する。5月。

インターハイ予選団体第三位。同個人の部で須藤・丸山組が第五位となり、インターハイに出場する。6月。

インターハイで須藤・丸山組が三回戦に出場する。8月、松山市。

一年生大会優勝 石井・武井組。同二位 田村・荒井組。同三位 長井・寺口組 8月。

軟式テニス部

県総体個人の部で石井・武井組が関東大会に出場する。5月。

インターハイ予選団体第三位。同個人の部で須藤・丸山組が第五位となり、インターハイに出場する。6月。

インターハイで須藤・丸山組が三回戦に出場する。8月、松山市。

一年生大会優勝 石井・武井組。同二位 田村・荒井組。同三位 長井・寺口組 8月。

新人戦団体第二位。個人では須藤・武井組が第三位となる。9月・10月。

全国新人団体選抜県予選会第二位 11月。バスケット部

インターハイ県予選第三位 国体県予選優勝 二年生の佐藤弘之が関東ブロックに出場する。

県下強化大会優勝 現在、春の選抜大会、インターハイにむかつて頑張っている。

バレー部 高校総体第二位 5月。

インターハイ予選優勝 6月。

国体予選第二位 7月。

秋期大会第三位 11月。

野球部 新チーム結成以来、公式戦では負け知らず、西毛トナメントで優勝、秋季大会を制覇して、関東大会の決勝まで破竹の進撃を続けて来た。以下、その経過をたどって見る。

西毛トナメント(高崎城南球場)

対中央 13-4 8月21日

対高商 4-2 8月27日

対吉井 3-1 8月28日

対沼田 8-0 8月29日 優勝

秋季県大会(桐生球場)

対沼田 5-2 9月20日

対育英 13-0 9月28日

対前商 7-2 10月5日

対高商 3-0 10月10日

春季陸上110J・H第二位(15秒1) 永井正樹。同400第二位(51秒02) 加藤隆志。同走巾第四位(6m52) 永井正樹。同ハンマー投第三位(42m48) 伊勢川光。4月20日。

リレーカーニバル(4×400R)第二位(3分27秒1) 内田、萩原、反町、加藤 4月26日。

関東高校陸上走巾跳第六位(6m81) 永井正樹。同100J・H第六位(15秒1) 永井正樹。同400H第五位(55秒4) 加藤隆志。同4×400R第三位(3分22秒6) 内田、萩原、反町、加藤。6月。

上尾市。県下陸上選手権110H第四位(15秒6) 永井正樹。同4×400R第一位(3分25秒0) 内田、萩原、反町、加藤。6月。

全国高校陸上(インターハイ)110H第四位(14秒72) 永井正樹。8月。松山市。

将棋部 県高校将棋選手権大会団体戦の部優勝。

対吉井 2-1 10月11日 優勝

秋季関東大会(水戸市民球場)

対水戸農 8-0 11月2日

対国学栃木 3-2 11月4日

対日立工 2-0 11月5日

対印旛高 2-5 11月6日

関東大会準優勝という輝かしい成果をあげ、来春の選抜大会出場に大きく近づいた。選手達は気持ちを締め直して、着々と練習に励んでいる。

ラグビー部 県高校総体兼関東大会県予選優勝 5月。

関東大会出場 浦和高に敗れる。6月。

国体県予選第一位 県代表選抜チームの主力として推薦される。6月。

国体地区予選 茨城県代表に敗れる。8月。

第60回全国大会県予選 決勝において惜しくも農大二高に敗れ、準優勝となる。

*進学状況 (全日制)

() は現役

大学	年次	53 年	54 年	55 年	大学	年次	53 年	54 年	55 年
北大	大	5(3)	5(2)	6(1)	高経大	大	14(6)	26(10)	39(21)
東北大	大	28(14)	22(12)	23(13)	早大	大	80(27)	72(31)	53(15)
東大	大	11(5)	7(2)	8(5)	慶応大	大	39(17)	34(19)	27(5)
一橋大	大	4(2)	4(4)	3(1)	中央大	大	51(13)	45(10)	42(12)
東工大	大	4(2)	3(3)	4(2)	明治大	大	68(16)	60(13)	52(10)
千葉大	大	17(5)	14(10)	10(4)	日本大	大	21(7)	39(2)	23(4)
京大	大	5(2)	3(2)	2(1)	上智大	大	30(9)	12(5)	9(3)
新潟大	大	12(7)	8(4)	19(8)	法政大	大	21(5)	33(4)	24(3)
筑波大	大	6(5)	4(4)	4(4)	立教大	大	16(5)	18(4)	11(2)
金沢大	大	4(2)	3(2)	2(0)	東京電機大	大	6(2)	11(3)	11(1)
東外大	大	1(0)	3(3)	6(3)	東京理大	大	32(14)	47(10)	34(14)
群馬大	大	44(28)	58(41)	58(40)	芝浦工大	大	14(7)	6(1)	6(0)
横国大	大	5(2)	6(2)	6(2)	成蹊大	大	10(1)	13(3)	7(1)
静岡大	大	2(1)	3(3)	3(2)	学習院大	大	11(4)	10(6)	9(1)
山梨大	大	1(0)	0(0)	0(0)	青山学院大	大	27(5)	25(11)	22(6)
埼玉大	大	14(8)	13(6)	5(3)	武蔵大	大	9(1)	7(1)	12(0)
信州大	大	4(2)	5(3)	6(3)	同志社大	大	9(4)	7(3)	11(5)
横浜市大	大	3(1)	1(1)	1(0)	立命館大	大	13(3)	9(3)	9(0)
					その他		145(37)	218(55)	200(52)

*種別合計 (全日制)

大 学 別	53 年	54 年	55 年
A 国立	199(101)	193(112)	197(102)
B 公立	25(8)	37(16)	52(26)
C 私立	581(169)	615(164)	518(119)
A + B + C	805(278)	845(292)	767(247)
D 短大、各種他	6(2)	9(5)	3(3)
総 計 (延数)	811(280)	854(297)	770(250)
卒業生数	408	405	403
現役進学者数	192	207	189
進学率 (現役)	47.2%	51.2%	46.9%

*昭和55年度 高々同窓会 経常会計予算
(昭和55年1月～12月)

収 入 の 部		
費 目	昭和55年度予算	備 考
前年度からの繰越金	292,443	
入 会 金	415,000	全日405、通信10
維持会費	1,500,000	
利 息	10,000	
合 計	2,217,443	

支 出 の 部		
費 目	昭和55年度予算	備考 ○増 △減
会議費	110,000	○ 10,000
祝 賀 費	80,000	○ 20,000
餞 別 費	110,000	○ 10,000
慶 弔 費	60,000	○ 30,000
通信印刷費	100,000	○ 70,000
旅 費	60,000	○ 20,000
總會通信印刷費	700,000	○ 70,000
同窓会報費	150,000	○ 20,000
事務費	550,000	
雑 費	50,000	
予 備 費	247,443	○164,172
合 計	2,217,443	○414,172

昭和55年 月 日

高々同窓会校内幹事会計

佐野卓立
松本昭栄
茂木道弘
真砂芳夫

*昭和54年度 高々同窓会 経常会計報告 (昭和54年1月～12月)

収 入 の 部			
費 目	昭和54年度予算	実 収 入	備 考
前年度からの繰越金	80,271	80,271	
入 会 金	413,000	418,000	全日405、通信13
維持会費	1,300,000	1,960,320	
利 息	10,000	8,242	
合 計	1,803,271	2,466,833	

支 出 の 部			
費 目	昭和54年予算	実 支 出	備 考
会議費	100,000	104,255	總會
祝 賀 費	60,000	63,204	卒業証書筒
餞 別 費	100,000	61,000	転出職員への餞別
慶 弔 費	30,000	51,000	香典、花輪
通信印刷費	30,000	83,680	会費納入への御礼ハガキ
旅 費	40,000	47,390	京浜同窓会出席
總會通信印刷費	630,000	603,750	總會通知等発送(12,075通)
同窓会報費	130,000	130,500	同窓会報印刷
事務費	550,000	509,611	人件費
雑 費	50,000	0	
予 備 費	83,271	20,000	レプリカ(井上賞・真木賞)
同窓会基金へ		500,000	
次年度への繰越		292,443	
合 計	1,803,271	2,466,833	

*昭和54年度 高々同窓会特別会計(同窓会基金) (昭和54年1月～12月)

収 入 の 部		支 出 の 部	
費 目		な	し
前年度からの繰越	1,873,959		
利 息	92,604		
昭和54年度経常会計より	500,000		
合 計	2,466,563	残高合計 2,466,563	
		(高崎信用金庫西支店 定期)	

内川尚和、岡村桂吾、櫻井栄一出場。
全国大会(東京)出場。内川、岡村、櫻井。出場校33校。一回戦で大阪代表同志社香里高校に1対2で敗れる。8月。地学部
県学生科学賞最優秀賞受賞。「榛名火山二つ岳の二重爆発火口とその堆積物」
全国大会に同作品を出品する。

【事務局より】 ただいま、学校史を頒布中です。御希望の方は、同封の申込書にて、御申込みください。残部に限りがありますので、お早目に願います。維持会費の御協力もお願いします。

なお、右に紹介されなかった運動・学芸各部についても、たまたま今年度特に見るべき戦績がないということと報告がなかったか、或は発表の機会に恵まれなかったというだけで、部活動本来である日常地道の努力は着々と積み重ねられていることは言うまでもありません。
角田記